

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700026		
法人名	有限会社 めぐみ介護サービス		
事業所名	グループホーム 中野方めぐみ		
所在地	岐阜県恵那市中野方町3564-3		
自己評価作成日	平成25年9月7日	評価結果市町村受理日	平成25年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2191700026-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笠置山の麓の田園の中に位置し、四季の移り変わりを笠置山や田園に感じ、落ち着いた木造の日本家屋に吹き抜けの居間。広い庭で、ゆっくり・穏やかに流れていく時間の中で、一人が笑えばみんなが笑い、一人が歌えばみんなが歌い、誰もがその人らしく毎日をすごして頂けるように支援しています。今までやりたかった事や興味のあること行きたいところを出るだけ叶えてさせていただけるように支援に努めています。また地域住民との日常的なつながりを大切に開かれたホーム作りを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木造の日本家屋は、縁側や窓から季節の花が咲く広い庭や田畑が見渡せ、開放感にあふれている。飼い猫が遊び、生花や花鉢が飾られた居間からは、話し声や笑い声・歌声が聞こえ、明るく和やかな雰囲気のある事業所である。住民向けに介護予防サロンを開催や、地域の人と一緒に自治会の当番の仕事、文化まつりに利用者の作品を出品し見学に行っている。野菜や土産の差し入れがあり、小学生が種から育てた花を持って訪問するなど地域との関わりを大切にして取り組んでいる。好きな色に毛染したい、俳句をNHKに投稿したい、娘の家を訪問したいなど、利用者の話を聞き、意向の把握に努め、できる限り実現することで理念の実践に繋げている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員は理念を共有し、利用者が毎日生きがいを持って暮らせるように常に考え、職員は尊厳をもって支援している。	歌声・笑い声・笑顔などわかりやすい言葉で事業所独自の理念を全職員で考え作り上げた。利用者、家族、職員の笑顔が多くあり、明るく元気が出る事業所になるよう管理者と職員は取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に組み入れし、地域の行事には参加し、積極的に参加交流して、地域の一員として日常的に交流に努めている。	住民向けに介護予防サロンを開催したり、地域のお祭りに利用者と参加したり、文化まつりに出品したりしている。近隣の人から、野菜や旅行の土産の差し入れがある。小学生が育てた花を持って訪問するなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報活動で介護教室・認知症サポーター養成講座・地域へ向けて広報新聞の配布を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の入居状況や事業所の取り組み等を報告し、会議より出された意見は、サービスの向上に活かしている。	事業所の利用状況や活動の報告について活発に意見が出されている。メンバーが避難訓練に参加して決められた避難口だけではなく、いろいろな場所から避難してはどうかと助言を得て避難訓練に取り入れた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは必要に応じ、事業所の実情を伝えたり、相談したり協力関係を築くように取り組んでいる。	書類の作成について相談し、事業所の現状や入居情報など報告している。市からは、広報やパンフレットの配布を依頼されるなど、信頼関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員は身体拘束をしないケアを正しく理解し、それに取り組んでいる。	全職員は研修を受け、身体拘束をしないケアを理解している。前回の外部評価の助言から夜間のペット柵について、全職員で話し合い改善した。急な階段のため、安全性に配慮し、2階部分には建物に配慮した木製の格子戸が取り付けられ、常に鍵がかけられている。	2階部分に職員が簡易に開け閉めが出来る鍵が付けられている。身体拘束について職員間で研修や話し合いを行っているが、2階のドアの施錠について再度話し合っ欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は高齢者虐待防止関連法を十分理解し、虐待が自宅や事業所で見過ごされたりすることがないように、いつも注意を払い、防止に努めている。		

グループホーム中野方めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修や社外研修・講演会に積極的に参加し、情報を共有し活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事項は、契約時に十分説明を行った上で、利用者や家族の不安や質問には納得がいくまで丁寧に説明し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する意見や・要望は、利用者は日常的にいつでも表せる機会を設け、家族は面会や電話等で機会を設けて、それを運営に反映している。	職員は、利用者や家族が話しやすいように声をかけている。毎年、家族に無記名のアンケートをして、外出機会を増やして欲しいと要望があったため、散歩や地域行事への参加など外出する機会を増やした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングはもちろん日常の中で、提案や意見を聞いて、その提案や意見を必要に応じて話し合いの場を設け、運営に反映している。	代表者や管理者は、日頃から職員より意見や提案を聞き、ミーティングなどで話し合っている。勤務時間の希望やケアに関する意見、備品の購入、災害備蓄倉庫の設置など要望が出され運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況をいつも把握し、職員個々と定期的に面談する機会を設け、誰もがやりがい・向上心を持っては働けるように、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で認知症・介護技術等の研修をおこなったり、外部の研修会・講演会に参加し、情報を共有しながら、段階に応じた育成に努め、働きながらそれを活かせるトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会と東濃支部への参加・研修会・交流会に参加したり、地域密着の会議の参加で取り組みや情報を参考にし、向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と向き合い、本人自身が話しやすい場所で話を聞く機会を設け、困ったことや不安を素早く察知し、それを取り除くことで、信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階で家族の困っていること・不安や要望を十分に聞き・理解し話し合い、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が今必要としていることを聞き、把握・理解し、健康診断書やサマリーを理解し、まず必要としている支援を見極めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を一方の立場に置かず、生活の中で尊厳を持ち、喜怒哀楽をいつでも共にし、お互い支えあいながら、暮らしを共にする同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の生活の中での小さな変化も報告し、協力や意見を求め、必要に応じて面会等を促したり、家族との交流の場を設けながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないように、本人の気持ちを大切に、家族との外出や友人等の面会が出来るように支援している。	入居時の聞き取りや利用者との普段の会話から馴染みの関係を把握している。昔の職場の人や同級生の訪問があった時は、再訪をお願いしている。近所の友人が近くのデイサービスを利用して情報を得て面会に出かけた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立しないように支援し、利用者同士が関わり合い、支え合いながら、コミュニケーションがとれるように支援している。		

グループホーム中野方めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族が必要としている限り、これまでの関係を大切に、断ち切らないように相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や暮らし方の希望の把握に努め、その人らしい暮らしが出来るように、支援に努め、困難な場合は、その人の過去の暮らし方を検討し本人本位に検討している。	のんびりくつろいでいる時に、話を聞いている。困難な人には、職員の一つ一つの動作を説明し表情から思いの把握に努めている。若い時から自分の好きな色に毛染めをしたかったという希望を叶えることが出来た。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から今までの生活や生活環境等を詳しく聞き、利用者が今までと変わりなく生活できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方等の現状の把握に努め、バイタルチェック・職員日誌・夜間日誌・個別記録等で職員が把握し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・その他関係者と話し合いながら、それぞれの立場の意見やアイデアを取り入れ、本人にとって一番よりよく暮らせるためのモニタリングを月1回以上行い、介護計画書に反映出来るように努めている。	利用者・家族から希望を聞き、全職員で話し合い、医師の助言を受けて、介護計画を作成している。担当職員が月1度モニタリングを行い、職員間で話し合うことで気づきやアイデアが反映できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート・個別記録・夜間日誌・職員日誌・ヒヤリハット等で情報を共有しながら、日々の様子を実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族や状況に応じ、柔軟にサービスの多機能化に取り組んでいる。		

グループホーム中野方めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望や必要に応じて、本人がやりたかったことや行きたかった所の希望を叶えるように支援している。地域のイベントやボランティアの受け入れをし支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師による2週間に一回の往診がある。体調の変化があれば、随時報告・連絡して対応の支持を受け、適切な医療を受けられるように支援している。	医療機関への受診は、家族や利用者の意向を大切にすることを説明している。かかりつけ医を受診する場合は職員が同行し、家族に受診前後の報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師に相談し、主治医との関係を密にしながら、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時利用者が安心して治療でき、出来るだけ早く退院出来るように、定期的に面会に行き、洗濯物・物流補給等を行い、医療関係者から情報を職員全員が把握し、本人はもちろん家族の不安を取り除き、早期退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については方針を共有し、重度化した場合や終末期の有り方については早い段階で本人・家族と話し合い、医療機関や家族との連携を強化し、細やかな支援をしている。終末ケアについては医療機関の対応を基本としている。実際は終末ケアに近い支援のケースもある。	入居時、終末期ケアについて事業所の方針を説明し理解を得ている。状態の変化に応じ早い段階から協力医、家族と話し合い、事業所で出来る範囲の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が対応できるように、緊急時対応マニュアルを作成し、救急手当てや初期対応はミーティング等で訓練して実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力が得られるように、働きかけている。近隣の住民参加による避難訓練を行い、協力体制を作っている。職員は定期的に避難訓練(日中・夜間・地震・火災)を行い、利用者が安全に避難できるように努めている。	運営推進会議や地域の避難訓練時に呼びかけたり、近隣の家を個別訪問したりして参加・協力を依頼して訓練を行っている。以前、避難勧告が出て利用者と一緒に避難した経験を活かし備蓄品等準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、職員は一人ひとりに合った言葉がけをするように十分配慮している。不適切な言葉を使った場合は、その都度別の場所でお互いを注意している。	職員は、ミーティングなどで一人ひとりを尊重する言葉づかいや、態度について話し合っている。排泄時はさりげなく声掛けトイレ誘導している。居室のポータブルトイレは外からでもわかる場所に置かれていた。	居室のポータブルトイレは、清潔に保たれている。家族や友人が訪室することもあるため、職員間で話し合い、配慮した工夫を望む。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を日常生活で表せ、自己決定できるように力に合わせた説明で働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護者の都合にならないように、利用者一人ひとりのペースに合わせ、その日の本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや髪型・洋服の好み・化粧品は本人の希望を優先し、美容院や洋服の買い物は希望に沿って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたいものを聞き、準備や盛り付け・食事・片付けを体調やその人の力に合わせて、職員と一緒に楽しみながら行っている。	調理当番の職員が利用者の好みや希望を聞きながら、献立を立て、彩り良く盛り付けている。野菜の下準備やお菓子作りなど出来ることを行っている。会話をしながら楽しい雰囲気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力や習慣に応じて、食事の形態・量・栄養のバランス・水分量を確保できるように職員は把握し、注意を払って支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きをし、一人ひとりの口腔状態を把握して、困難な利用者は口腔ケアを行い対応している。講習会等に参加し、誤嚥性肺炎等の予防に努めている。		

グループホーム中野方めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ自立で排泄できるように、職員は排泄パターンを把握し、習慣を活かし、定期的に声かけをし促している。排泄用品もその人に合った用品を利用することにより、自立に向けた支援をしている。	排泄パターンを把握して、早めに声掛けし、トイレに誘導している。出来る限りオムツをはずし、個々の状態に合わせパットなどを使用することで自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人の排便パターンを理解し、食物繊維や水分を十分に摂取し、散歩や運動で自然排便できるように支援している。便秘が続く場合は、かかりつけ医による投薬でコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望を考慮しながら、気持ちよく入浴を楽しめるように職員の勤務時間の中で、個々に沿った入浴支援をしている。	一日おきが基本であるが、希望を聞き毎日でも入浴できる。温度や時間など一人ひとりの希望を考慮し、会話しながら入浴している。季節の良い時は窓を開け里山の風景を見ながら入浴したり、ゆず湯やしょうぶ湯を楽しんだりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に応じ、昼寝は自由にしている。昼寝しない利用者は散歩や家事手伝い・ゲーム等で適度の運動になり、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容・容量・副作用は理解し、常に症状の変化の確認をし、体調の変化があれば、かかりつけ医に報告し指示等を受け、適切な投薬管理を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が以前からやってみたかったこと・役に立ちたいと言う気持ちを大切に、一人ひとりの生活歴や力を活かして、家事手伝い・習字・読書・買物・俳句の応募・合唱等を体調に合わせて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援に努めている。馴染みの場所や本人の行きたいところに家族と協力しながら出掛けられるように支援している。	天気の良い時は散歩や庭に出ている。利用者の希望によりドライブしたり、自宅まで出かけたりしている。地域で開催される敬老会に民生員委員の方が送迎して参加した。利用者の急な要望にも職員が付き添って出かけている。	

グループホーム中野方めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がい金を持つことの大切さを職員は理解しているが、ほとんど家族が管理している。能力のある方は必要に応じて使えるように、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に本人自ら電話したり、手紙のやり取りができるようにしている。家族や馴染みの人に送るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や置物で生活感や季節感を取り入れ、不快な刺激がないように配慮し、夏はよしずやゴーヤーを植え光を遮り、温度調整をし居心地良く過ごせるように工夫している。	利用者が活けた生花や季節の花鉢が飾られ、飼い猫が遊ぶ、明るく和やかな空間となっている。広いリビングであるが、一体感となるようにソファの配置を変えて、皆が一緒にくつろげる様に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブルや居間のソファで、ひとり一人にあった空間で、一人で読書や新聞を読んだり、気のあった同士で会話やギターに合わせて合唱をしたり、ゲーム等で楽しんだり出来るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を本人と相談しながら、本人の置きたい場所に置き、家族・知人・ホームでの作品を置き、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	生花や家族写真・本などが飾られている。持ち込まれた使い慣れたテーブル・イス・じゅうたん・テレビ・ベット・筆筒などは、利用者・家族と一緒に採光や動きやすさを考えながら配置し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人のわかる力を理解し、わかり易い説明・混乱しない物品を置き、場所がわかるようにドアに大きく貼紙をしたり、自分の居室がわかるように名札を貼り、安全に自立した生活が送れるように工夫している。		